

式辞

本日ここに、茂原市立富士見中学校創立七十周年記念式典の開催にあたり公私ともご多用のところ、茂原市教育委員会教育長 富田浩明 様をはじめ、多くのご来賓の方のご臨席を賜り、式典を挙行できますことは、この上ない慶びであり生徒・教職員を代表してお礼申し上げます。

さて、本校の七十年の歴史を振り返りますと、一九五五年、昭和三十年に現在市民体育館のある場所に、豊田中学校、二宮中学校、茂原中学校の一部地域を学区とした、新設中学校として開校しました。昭和三十年といえば、太平洋戦争の終結からまだ十年しか経っていない混乱期でした。お金も原材料もないという状況の中、地域からの強い要望とはいえ、新設の統合中学校を造るとするのは、並大抵のことではなかったと考えられます。四月の開校に校舎建築が間に合わず、開校式、入学式は未整地の校庭で行い、校舎が完成したのは四月二十日。たった十教室しかなく、一学級六十四名というすし詰め状態だったそうです。当時の生徒会長の手記には「野原に等しかった運動場を下級生たちと一緒に整備した」と記録されておりました。先輩たちの苦勞が忍ばれます。

建設当時の校舎は、原材料がない中急ぎ造られた校舎だったので、しばらくするとあちらこちらに傷みや老朽化が目立ってきました。そのため保護者や地域の方々などから移転新築の要望や、生徒・教職員の願いもあり、押日台に新校舎建築という運びになりました。今から四十五年前の昭和五十四年八月十九日に学校の引っ越しが行われました。今であれば運送業者によって引っ越しを行います。当時の富士見中学校は保護者、地域の方々、生徒・教職員総出で行いました。保護者のトラックで運びきれなかった机や椅子は、

生徒自身が歩いて運んできたそうです。保護者や地域の方の絶大な協力によりわずか半日で終わったと聞いています。富士見中学校に寄せる期待の大きさに感服します。

次に、富士見中学校の歴史で大切なことは、部活動の活躍です。多くの記録がありますので、ここでは少しだけ紹介します。昭和四十年代から五十年代にかけて、ソフトテニス部と野球部の活躍は目覚ましいものがありました。県下はもとより関東大会、全国大会で活躍していました。テニス部男子は全国中学校総合体育大会三位入賞という記録があります。その他の部活動においても各種県大会で立派な成績を残しています。最近のことでは、九年前に陸上男子百メートルで全国中学校総合体育大会優勝という輝かしい記録があります。今年、柔道部の二年生は、県大会優勝、関東大会三位、全国大会ベスト十六というこれも素晴らしい結果を残してくれました。「富士見魂」という言葉がありますが、これはかつての先輩たちが県大会や関東、全国大会で活躍していたとき、苦しい練習に耐えたことや最後まで諦めない心意気を表した言葉なのでしょう。今の皆さんにも伝えられていますね。そして、忘れてはいけないことは、部活動後援会の役員の方々の物心両面からの絶大なご支援です。いつも富士見中学校を見守り、応援していただきました。

これまで本校の七十年の歴史の一部について触れてきましたが、常に保護者や地域の方々に支えられ、その思いを礎として成り立っている学校であること、また、その上で真摯に努力し成長する生徒の姿は、誇らしいものでした。生徒の皆さんは富士見中学校の歴史から先輩たちの頑張りを知ること、自分自身の夢や未来の実現に向けて挑戦してほしいと思います。富士見中学校を大切に思う全ての人たちは、皆さんを応援しています。

結びに、今までの本校の教育活動にご支援とご協力をいただきありがとうございました。

た茂原市当局、PTA、部活動後援会並びに地域の皆様方に衷心よりお礼申し上げます。ご来賓の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

「母校の栄祈りつつ 我らの歴史築きゆく ああ母校 我らの富士見中学校」最後にこの言葉を生徒の皆さんに贈り式辞といたします。

令和六年十一月七日

茂原市立富士見中学校長 矢部 重秋